



MIHARU Rotary

クラブ方針

2019-20 三春ロータリークラブテーマ

エンジョイロータリー

Program

1. 開会点鐘
2. ロータリーソング「奉仕の理想」
3. 四つのテストの唱和
4. 会長挨拶
5. 幹事報告
6. 各委員会報告
7. ゲスト卓話 三春町教育長
高橋正美様
8. 閉会点鐘

閉門された明德門 (2016年:お城山まつり)

ゲスト卓話：三春町教育長 高橋 正美様

令和元年9月6日 (木) 12:30～ 場所：割烹 八文字屋

会長挨拶 大内 富雄

皆様こんにちは、会長挨拶を申し上げます。先月は、九州北部に未曾有の大雨が降りかなりの豪雨被害が発生致しました。これも地球温暖化の影響なのかと、非常に危惧される場所です。被災された方々へお見舞いを申し上げますと共に、一日も早い復興をお祈り致します。三春ロータリーと致しましても、2530地区を通じて災害援助要請が参りました節には、素早くご提供したいと考えて居りますので、その節は会員皆様のご協力をお願い致します。本日は、お客様に高橋正美三春町教育長様をお迎え致しております。三春町の教育についてのお話をお聞かせ戴ける事に成って居ります。どうぞ宜しく願致します。いよいよ9月に入り朝晩涼しさが増し、肌寒いを感じる季節となりました。9月は基本的教育と識字率向上月間となつて居りますので、関連するお話をさせて戴きます。国際ロータリーは1986年(昭和61年)世界運動として識字率向上を重要課題に採択し9月を強調月間として推進して居ります。また、ロータリー財団の重点分野の中にも「識字率の向上」が明記されており、ユネスコでは9月8日を国際識字デーと制定しております。「国際識字デー」とは、識字の重要性を世界に訴えかける日として、1965年にユネスコが制定した国際デーであります。きっかけは1965年9月8日、イランのテヘランで開催された当時の世界文部大臣会議で、イランのパーレビ国王が各国の軍事費1日分を識字教育にまわすように提案したのを記念し、制定されました。各国の識字率を地図で見ますと、アフリカの識字率が全体的に低く、比較的識字率の高いアジアの中でも、アフガニスタンはとても低くなつて居ります。文字の読み書きができない事で、得られる情報が不足し、書面での意思表示ができず、社会的な権利が大幅に制約されてしまい、識字率が低い事は国や地域の発展においても不利益になってしまいます。一方、日本の識字率は、数百年に亘って世界一を誇ると云われ、文献によりますと江戸時代の幕末期においては、庶民層でも男子で約半分は読み書きができ、幕末期に来日した西欧人達が日本の識字率の高さに驚いたことは複数の文献で伝えられています。幕末期(1854-61年頃)の江戸の識字率は男子が79%、女子が21%で、武士は殆ど100%読め、農村の僻地でも20%は読めたそうで、明治の代になり福沢諭吉は幕末の日本の識字率は世界一であると誇っていたようですが、当時の日本の識字率は、世界の中でも群を抜いていた様であります。世界の人口は、約75億6090万人と増え続けて居りますが、世界では7,500万人の子どもたちが学校に通えず、7億8,100万人の人々は読み書きができないと云われその3分の2は女性だそうです。読み書きができないと、意思や要求を書面で伝えられず、社会的な権利が大幅に制約されます。本人ばかりでなく国や地域の発展にとっても不利益になります。特にアフリカの国々では全体的に識字率が低く約30%と低く、アジアを見てもアフガニスタンは28%と、とても低くなつて居ります。アジア全体でも約60%と低く、IT産業の発展著しいインドでさえ66.0%です。



文字が読めない理由につきましては、国によって教育予算が少なく授業料が無料ではない国が多くあり、貧困家庭の子どもたちや孤児は学費を払えず学用品を買うお金がない、家計を助けるために働かなくてはならない。また、学校の教育の質が低い「学校に通わせる意味がない」と親が考え通わせないケースもあります。また、近くに学校がない、交通手段が発達していない、学校が何十キロも離れている、雨季に道路が冠水し通学そのものが困難、などと、多くの困難な状況も多々あるそうであります。「女の子は学校に通う必要がない」といわれる途上国では、男の子の教育にお金を使う傾向があり、多くの女の子は学校へ通えたとしても学校で性的嫌がらせを受けたり、女子用トイレがなかったり、女性教員が少ない、などの理由で学校へ通わなくなってしまうそうであります。教員の多くは一般的な公務員より安い賃金で働き、病欠中の賃金や年金などの保証もないため、先生の人数が足りず、また教員の無断欠勤や人数の減少がおきているそうであります。家で話す言葉と学校で教わる言葉が違うため、少数民族が通う場所への学校建設を後回しにする国も多いそうです。少数民族の言語での授業を認めないため、現地語を理解する教師が不足し自ずと勉強についていけない生徒は、自然と学校から離れて行ってしまうそうであります。義務教育となっている日本ではとても考えられない状況であります。話はまだまだ尽きないのでありますが、時間となりましたので終わらせて戴きますが、機会がありましたら続きをお話してみたいと思っております。ご清聴ありがとうございました。この後、教育長から卓話を頂きますので宜しくお願い致します。

幹事報告 市川 宏一

1. 9月 9日(月)理事会 19時より
2. 9月13日(金)会長・幹事会 18時より
3. 9月14日(土)職業奉仕委員会セミナー
4. 9月16日(月)第23回三春ロータリークラブ少年ソフトボール大会
町営グラウンド:集合8時



ゲスト卓話 三春町教育長 高橋正美 様

三春の教育の推進

全ての幼児児童生徒一人ひとりの違い(特性、多様な個性)を生かせる教育の推進

全ての幼児児童生徒の違いを可能な限り把握し、その特性を生かせるような手だてを計画的に実践化を図れるようにする。個性:個人や個体の持つ、それ特有の性質・特徴。特に個人のそれに関しては、パーソナリティと呼ばれる。ほかの誰とも違う、その人特有の性質。個別性。個人性。

特性:そのものだけが持つ性質。特有のすぐれた性質。特別に違った性質。

1.多様な個性が肯定され 生かされる教育の推進

全ての幼児児童生徒の違い、個性や特性を把握し、違い(個性や特性)に即した指導・支援を行い、その個性や特性を生かしていけるようにする。

(1) 発達障害等の障害のある幼児児童生徒への教育の充実

インクルーシブ教育システム(多様性等の尊重、障害のある幼児児童生徒がその能力等を最大限度まで発達させること、自由な社会への効果的な参加を可能とすること等を目的とし、障害のある者と障害のない者が共に学ぶ仕組みの構築に向けた取り組み)を一層推進する。

- 早期発見・早期対応の仕組みの充実と関係機関間の連携と確かな引き継ぎを行い当該幼児児童生徒の困り感の払拭を図るとともに、多様な個性を生かす教育の実現を図る。
 - *保健福祉課との連携:五歳児発達相談、保育所・幼稚園での保護者教育相談
 - *小学校での対保護者教育相談の充実、保育所・幼稚園と小学校の引き継ぎ・連携、小学校と中学校の引き継ぎ・連携、中学校と高等学校の引き継ぎ連携と、発達段階に応じた個性を生かす手立ての工夫 等
- 保幼小中学校での個別カルテ(個別の教育支援計画、個別の指導計画)の作成と引継ぎの義務化
 - * 進級、進学、就労の際は、情報の取扱いに配慮した上で、個別カルテによる適切な引継ぎの仕組みを確認整備する。
 - * 幼稚園・保育所と小学校のスムーズな接続を図るスタートカリキュラム・アプローチカリキュラム作成により「学校生活」「人間関係」「教科学習」への適応を促し、小1プロブレムの払拭を図る。
 - ※進級・進学における引き継ぎは、年度末の機関間の引き継ぎのみでなく、新年度に入ってから、進級後、進学後の個に応じた対応連携も重要である。インクルーシブ教育システム構築のためにも連携を絶やさないようにしたい。
- 『たむら支援学校』、療育機関(のびっこらんど etc.) 等との専門機関との連携を推進する。

(2) 不登校等の幼児児童生徒への教育

- 個別カルテ作成(個別の教育支援計画、個別の指導計画の作成も考慮)教育相談体制の充実、多様な学びの場の模索
 - *スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、相談機関等との連携

(3) 学力差に応じたきめ細かい学習指導・支援『ユニバーサルデザインの考えによる学級づくり、「分かる、できる、楽しい」授業づくり』の推進充実

- 得意分野の伸長や苦手分野の克服のための「個に応じた学習指導」の推進を図る~学力差にかかわらず全ての児童生徒の学力を高める教育を充実させる。

- アンダーアチーバー児童生徒には、その要因を探り、アンダーアチーバー要因の払拭の手だて、技性に応じた具体的手立てを講ずること。

多様な実態に応じた学習指導・支援方法の工夫・改善を図る。

習熟度別少人数指導・ICT活用による個に応じた学習・補充・発展学習 等

「個別カルテ」

(文部科学省の言い方)

2 地域に根ざした開かれた学校づくり

(1) 地域住民の教育参加

『子どもは町の宝、地域の子どもは地域のみんなで育てましょう!』

の合い言葉に添った家庭・地域・学校が三位一体となった学校教育~ 地域の多様な教育資源の掘り起こしと活用、学習ボランティアの依頼、教育への積極的関与促進 → 地域の教育力醸成・教育力の維持向上子どもへの『ふるさと三春町』への”誇り”の醸成に

(2) コミュニティスクール『学校運営協議会』による地域の声を生かした敷育経営

地域の教育資源の発掘と積極的活用・地域の良さの発見と教育資源の発掘・活用

地域と学校との信頼関係の構築・地域の人材発掘と協力要請、学校開放

地域の実情に応じた教育活動の充実・地域の教育資源の活用

地域に根ざした教育活動の推進 地域への愛着の醸成 atc.

3 意識高い教職員集団に

「人間は自分を好きな人、しかも尊敬できる人からのみ文化や伝統を受け継ぐことができるようにプログラミングされている」とノーベル医学生理学賞受賞者コンラート・ローレンツ(オーストリアの動物行動学者)は言っています。日本でも昔から『教育は人なり』と言われてきました。

子どもたちがあっての学校です。教師は子どもたちの思い、保護者の思いを大切に受け止められるよう自分を磨いていかねばなりません。

教師にとっては、授業が第一です。子どもたちの誰もが「分かる・できる・楽しい」という授業づくりのための工夫改善を図れるよう研修を積むことは、教育のプロフェッショナルとして当然のことです。

『分かる』『できる』学びは、『楽しい』学びです。また、『分かる』『できる』があれば、学びは自ずと『楽しい』ものになるはず。学びが楽しくなれば、学びへの向かい友が積極的になってくるはず。

このような学びの好循環を生み出せるように教師は、『分かる』『できる』授業を組織し、学びが『楽しい』と言われる授業を構築できるよう研鑽を図ることが大切です。そのため、いずれの小中学校でも研修の機会を多種多様に職務時間内に設定しているはず。『分かる』『できる』授業を組織するための研修は大切な職務の一つです。

未来を担う大切な子どもたちのために、幼児児童生徒個々の特性を把握すると共に、個々に応じた指導支援ができるような授業充塞のための研修は重要な職責になります。

4生涯学習の推進

社会教育分野に関連する事項としては、『三春の教育』推進の柱のひとつとして「地域住民の教育参加」が位置付けられています。また、『三春町第7次長期計画(H26.12策定)』においても、「豊かな心と文化を育むまちづくり」が基本目標のひとつとされており、この計画の中において、充実を図っていくべきものとして「生涯学習・文化環境」、「スポーツ振興」、「校外学習」が掲げられています。

今後においても、これら既存計画を踏まえながら、「心の豊かさ」、「交流とふれあい」、「健康・体力づくり」、「歴史と文化のまちづくり」、「児童の心身の健全な育成」等の町民の生活文化向上に向けた多角的な取り組みを進めていくとともに、多様化する社会生活に即した青少年の健全育成のための校外学習の推進についても対応を進めてまいりたいと考えております。

5適正な施設管理等

学校は、子どもたちの安全・安心な環境が保持されることが大前提だと認識しております。このため、今後も施設・設備の適正な維持管理を継続していきたいと考えております。また、小学校児童の減少傾向に伴う小規模校化への対応につきましては、さまざまな観点から対応を検討するとともに、基本的にはそこで学ぶ子どもの教育環境を第一に考えていきたいと思っております。小規模校の保護者の皆さんと意見交換する機会がありましたが、今後もこのような取組を重ね、より良い学校のあり方について話し合っていくことが大切だと思った次第です。





Smile Box スマイルボックス

- 大内 富雄さん
高橋教育長様、ようこそ三春ロータリークラブへ。卓話楽しみにしています。
どうか宜しくお願いいたします。
- 白岩 良子さん
ゲスト卓話にお越しいただいた事に感謝し、お話を楽しみにしております。
- 三條 安國さん
高橋教育長様の来訪に感謝してスマイルいたします。今日はありがとうございました。
- 増子 博保さん
高橋教育長の御来訪を祝してスマイルします。お話楽しみにしております。
- 福原義守さん
三春町教育委員会 高橋教育長様、ようこそ三春ロータリークラブへ。
今日は高橋教育長様の卓話を楽しみにして来ました。お世話になります。
- 三瓶 一壽さん
高橋教育長、本日は三春ロータリークラブへようこそ。
毎年、絵灯籠まつりでお世話になっており、有難うございます。
- 橋本 紀子さん
高橋教育長さんの来訪に感謝して。 お話楽しみにしています。
- 石川和広さん
高橋教育長の三春ロータリークラブご訪問を歓迎してスマイルします。

本日も多くのスマイルありがとうございました。 計 14,000 円